

『 ある冬の記憶 』

何度も冬は経験してきましたが、今から10年ほど前の冬は、私にとっては別格のものでした。私は、その年度の途中の11月に校長として採用されました。勤務地への赴任は11月16日。その年の冬の訪れは早く、雪が舞う中での引っ越しでした。

管理職の年度途中の人事異動ですので、前任者に何らかの事情が発生したわけです。平たく言いますと、良くないことが起きたのです。新聞でも報道されました。したがって、保護者や地域の方々が抱くこの学校に対する不信感はとても大きいものでありました。

さらに、「今度来る校長は、となりの管内の都市部からやってくる」ということで、「どんなやつだ?」と、極めて厳しい目で見られました。

そして、この学校が抱える課題は、前任の校長に起因する学校不信だけではありませんでした。山の中のとても小さな学校でしたが、学級の状況や職員に課題がありました。赴任後3日目の夜には、緊急の保護者会が開かれました。ある学級の担任の指導力に課題があり、「何とかしてほしい」と強い要望が出されました。私は「学校として、できる限りの手立てを講じ、学級の安定化を図ります」と答えました。

結果、翌日から、複式学級の算数のTT（主にメインで）と理科の授業を私がやることになりました。週に8時間程その学級に入りました。子どもの様子や担任の状況を早い段階で掴めますし、子どもとの人間関係も授業を通して形成できるので、私としては結果オーライでした。

赴任1週間後に、PTA会長さんが来校されました。着任の挨拶は、引っ越しの際にしましたので、「何の用だろうか?」とは思いました。

すると、「校長、来年度の学校経営方針は、いつ作るんだ?」と切り出されました。私は心の中では、「えー!」と叫びつつも、「そうですね。1月の下旬くらいには、経営方針の骨格は作るつもりですが・・・」「何か、学校に対してご要望がありますか?」

「とにかく、普通の学校にしてくれ!」「俺が、PTA会長になってから、ずーっとこの学校は問題が続いているんだ。それも学校内部の問題が・・・」「あと、俺らのことを理解してから作って欲しい!」「頼んだぞ。校長」

PTA会長さんが、学校経営に対してもの申されるのは、私としては、もちろんこれが初めてのことでした。「すごい所に来たな〜」「普通って、その基準は高そうだな・・・」と思わずつぶやいてしまいました。

12月下旬、町内会長さんが来校されました。「校長、うちの町内会は、例年1月2日に新年会をやっています。是非、出席して欲しい」と。

1月2日は、午前10時から、まずは町内会総会が行われ、午前11時30分頃から新年会が始まりました。男衆だけでなく、家族での参加が慣例となっており、大変にぎやかな会でした。この地域（農業が主産業）の方々は、いわば一人ひとりが経営者なので、自分の仕事や生き方に対して高い誇りと強い信念を持っておられました。ですから、会話の内容も、日々の仕事に関すること、さらに国の農業政策や町政に関することが主でした。そして、皆さん熱く語り、あちこちで盛り上がっていました。

たまたま、私の向かいに座られた方は、地域の重鎮であり、かつ論客の筆頭と目される方でした。時折、教育全般に関する質問を私にされるのですが、これが困りました。赴任してまもなくでお互いがどんな人間かがわからない状態であること、そして、私の口から発した言葉は、今度来た「校長の言葉」として受け止められ地域にも広まることを考慮しましたので、私個人の明確な見解は控え、誤解のないように当たり障りのない内容で答えることに終始しました。

この方にとっては、極めて不満足な会話であり、私に対して大いに物足りなさを感じられたと思います。こんな調子で、どなたに対しても身構えていましたので（極力、笑顔を意識しましたが）、楽しい会話になるわけがありません。私自身も、大変不本意な状況ではありました。

午後2時過ぎ頃より、片付けが始まりました。「お、そろそろお開きになるのかな？」と予想（期待・・・）しましたが、全てを片づけるわけではなく、「まだ、残りたい方は、こちらでどうぞ」という感じでした。正直、どういうタイミングで引き揚げたらよいのか見当がつかず、ここで帰ってしまって「何だ。校長、もう帰ったのか」と思われるのが嫌だったので、しばし残留を決めました。正直早く帰りたい気持ちはありましたが、何人かの方との会話（もっぱら聞き役でしたが）で、顔と名前が一致する方が増えましたし、どのような考えをお持ちなのかもある程度掴めました。結果、午後6時近くに住宅にもどりました（帰らない方は、まだけっこういました）。改めて、「すごい所に来たな・・・」と思いました。

1月下旬。PTA会長さんが来校されました。校舎中庭の積雪状態を見に来られたのです。この校舎の屋根の構造上、積もった雪の半分は、中庭（300平米位）に落ちます。雪の多い地域でしたから、すでになかなりの雪が積もっていました。校舎壁付近は、降雪と屋根からの落雪があいまって、2m以上はありました。そして、ホール中庭側のガラス戸にかなり迫っており危ない状態でした。その様子を見て、「そろそろ、排雪が必要だね。明後日の午後からやるかい」と。

排雪作業は、午後2時頃から始まりました。3名の保護者（父親）に私と教頭の5名による作業でした。PTA会長さんは、重機を操作。圧倒的なパワーで雪の壁を崩し、大量の雪を巻き込んで、すごい勢いで遠くへ排出していました。他4人は、壁を傷めないように気を付けながら、スコップでひたすら壁際の雪を崩しました。作業は、休憩なしでおよそ2時間。中庭の雪は、きれいになりました。私は、その光景を見て、感動を覚えました。そして、作業に協力してくださった皆さんに、心から感謝の気持ちが湧き上がりました。すると、気が付けば私は、PTA会長さんに歩み寄っていました。「今晚、校長住宅で、一杯やりませんか？飲めない私が言うのも何ですが」

結局、その夜は、保護者2名（PTA会長と子ども会会長）と教頭の4人でささやかな会を開きました。日中、協同作業で汗を流したこともあり、何となく、互いが少しオープンな雰囲気を感じ出していることが感じられました。話題は、学校のことが中心でした。やがて「校長は、どんな学校を目指しているんだい？」と核心を問われ、「他を認め合うこと。子どもの良さを引き出すこと。そして、子どもを大事にし過ぎないできちんと鍛えること」そんな学校にしたいと答えました。とても良い語り合いができたなと思いました。そして、初めて「ここでやっていけるかも」と手ごたえを得た場となりました。その後も2月に、二度、校長住宅で父さん方と語り合う機会がありました。

3月上旬、学校評議員会において、次年度の学校経営方針が協議され、全面的な賛同を得ました。「これだけ学校のこと、子どものことを考えてくれてありがたい」と。

それから何日か経ってからPTA会長さんが、ひょっこり来校されました。「校長。来たタイミングが良かったね。冬は、俺らも時間がある。校長と、いっぱい話をするのができて良かったよ」と。「私もそう思います。本当に良かったです！」

今も、冬が来ると思い出します。得も言われぬ縁と出会いがあった別格な冬であったなと。